

野菜・畑作用除草剤

フィールドスター®P乳剤

BASF
We create chemistry

移植ビートに新しい提案、ゼロ回目除草。※ 早めの土壌処理で差がつきます。



※ゼロ回目除草とは、除草剤慣行処理1回目より前に除草剤処理を行う新しい提案です。使用回数は1回となりますのでご注意ください。

フィールドスターP乳剤土壌処理区



無処理区



【試験概要】 2017年 帯広市川西 5月2日移植 5月9日(移植7日後)フィールドスターP乳剤土壌散布
5月30日(移植28日後)撮影

- ★ 40日以上長期持続効果!
- ★ 一年生イネ科雑草、ツユクサ、イヌホオズキ、ヒユ類に

ツユクサの芽生え

土中深くから生えるツユクサは、土壌処理で叩くことが効果的です。



■上手な使い方

●散布時期：雑草発生前の散布

雑草の発芽後では効力が劣るので、雑草発生前に処理してください。

●適用土壌：砂土はさける

本剤は土壌中の移行性が比較的大きいので、砂土での使用はさけてください。

●処理薬量：薬量は必ず守る

ラベルをよく読み、処理薬量を守ってお使いください。砂質がかった土壌や礫が多い圃場では低目の薬量で使用してください。

●均一散布：希釈水量を守り均一に散布する

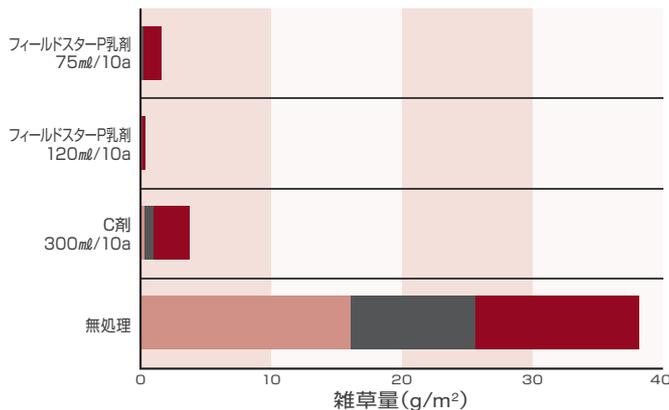
重複散布は薬害を生じるおそれがあるので、注意して散布してください。

●天候に注意：散布直後の大雨

散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見極めてから散布してください。

■試験成績(てんさい)

平成19年 十勝農業試験場



品種名:スタウト

移植日:4月27日

調査日:6月18日(処理37日後)

処理時期:5月12日(移植15日後、イネ科雑草発生前)

■	イヌビエ
■	スズメノカタビラ
■	非イネ科 その他

■適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地域	ジメテナミドおよびジメテナミドPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量				
てんさい(移植栽培)	一年生雑草(アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く)	定植後または中耕後雑草発生前 但し 収穫45日前まで	砂土を除く 全土壌	75~120ml/10a	100ℓ/10a	1回	全面土壌散布	北海道	1回
てんさい(直播栽培)	一年生イネ科雑草	出芽前期(雑草発生前)		75ml/10a					
キャベツ	一年生雑草(アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く)	定植後(雑草発生前) 但し 定植後10日まで		50~75ml/10a					
たまねぎ		定植後(雑草発生前) 但し 定植後30日まで		75~120ml/10a	70~150ℓ/10a				
えだまめ だいず		は種後発芽前(雑草発生前)							
とうもろこし		とうもろこし							
飼料用 とうもろこし	一年生イネ科雑草	とうもろこし 出芽直前~2葉期(イネ科雑草2葉期まで)		100ℓ/10a			北海道		

⚠️ 効果・薬害等の注意



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤の所定量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布してください。
- 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので必ず雑草発生前に時期を失しないように散布してください。
- アカザ科、タデ科およびアブラナ科など一部広葉雑草には効果が劣るので、これら広葉雑草の混在する所では、広葉雑草に有効な除草剤との体系で使用してください。
- 散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布してください。
- えだまめ、だいず、飼料用とうもろこし、とうもろこしおよび直播栽培のてんさいに使用する場合には、砕土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2~3cm以上としてください。
- 直播栽培のてんさいに使用する場合には、出芽前期以前では生育抑制等の薬害を生じる場合があるので処理時期や薬量を厳守してください。
- 散布に当たっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用してください。
- キャベツに使用する場合には、初期生育抑制を生じることがあるので、薬量を厳守してください。
- 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 散布に使った器具類は良く水洗いして、他の用途に使用する時は影響のないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠️ 安全使用上の注意



- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
 - 原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けてください。
 - 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
 - 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 魚毒性…使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器的洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…火気を避け、食品と区別して、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管してください。

このチラシの記載内容は2017年11月現在のものです。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう

※この用紙は再生紙を使用しています。※植物油インキを使用しています。

BASFジャパン株式会社

〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー21階
☎0120-014-660 ☎03-3796-9419 <https://agriculture.basf.com/jp>BASF00834 2
201711